

(4) アンケート調査結果の分析・考察

1) 住み心地や愛着について

① 住みやすさと今後の居留意向

- 全体の60%以上が住みやすさを感じており、今後も住み続けたいと思っているが、年代別にみると、若い世代ほど、「住みにくい」や「市外へ移りたい」と思う人の割合が高くなる。

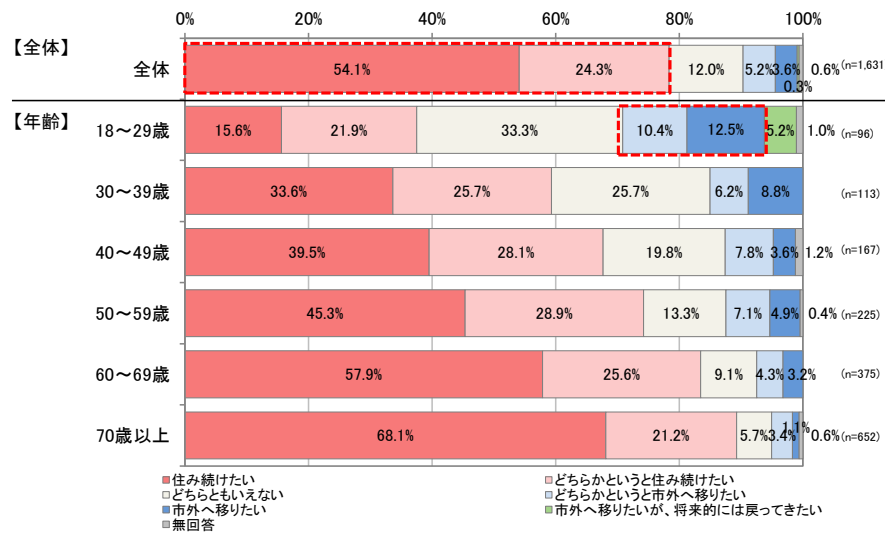


図 問7 今後の居留意向（市民アンケート）

- 住みやすい、住み続けたいと思う理由としては、「自分や家族の家があるから」や「自然環境に恵まれているから」が多く、高校生アンケートでも、「豊かな自然環境」や「おいしい食材や食べ物」に誇りを持っている人が多い。
- 若い世代が住みにくい、市外へ移りたいと思う理由としては、「店舗や娯楽施設が不十分」、「魅力的な仕事がない」といった意見が挙げられている。
- 店舗や娯楽施設については、高校生ワークショップでも、「飲食店やコンビニ、アパレルなどの数や種類が少ない」、「映画館や運動施設等の娯楽施設が少ない」といった意見が多く挙げられており、若者のニーズに合わせた商業施設や娯楽施設の充実が求められている。
- また、魅力的な仕事については、高校生ワークショップでも、「希望する職場が少ない」、「規模が小さいまたは、先端技術を活かした企業が少ない」、「そもそもの様な仕事があるのか分からない」といった意見が挙げられており、市内企業のPRや職種の充実等が求められる。
- しかし、高校生アンケートでは、市外で進学・就職を希望する生徒のうち、約67%

が将来的に佐渡市に戻りたいと思っており、実際に市外へ出た後に、Uターンをしてもらえるように、豊かな自然環境やおいしい食べ物等の魅力を活かしつつ、買い物環境や仕事環境の改善、PR等を行っていく必要がある。

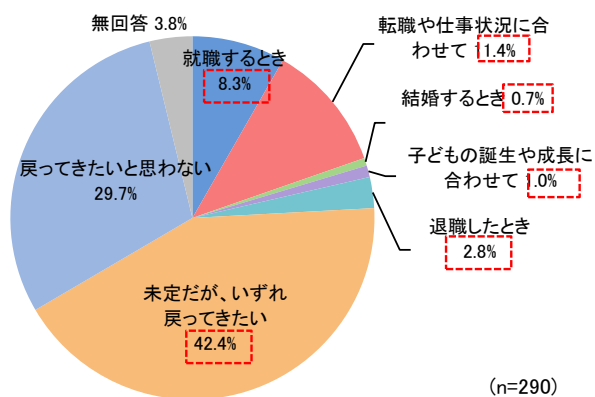


図 問9 将来的に戻ってきたいか (高校生アンケート)

2) 生活・環境・移住定住について

① 公共交通

- 交通に関する取り組みの満足度・重要度は、特に「佐渡航路や佐渡空港の整備」など市外へのアクセス性についての不満が高く、佐渡汽船の本数や運賃、天候の影響の受けやすさといった理由が考えられる。
- 市内での移動については、特に10・20代と70代以上で利用率が高く、それらの世代では、公共交通の維持のために、特に「不便な地域等を巡回するバスや予約制バスの運行」、「運行経路や運賃の見直し」が求められている。

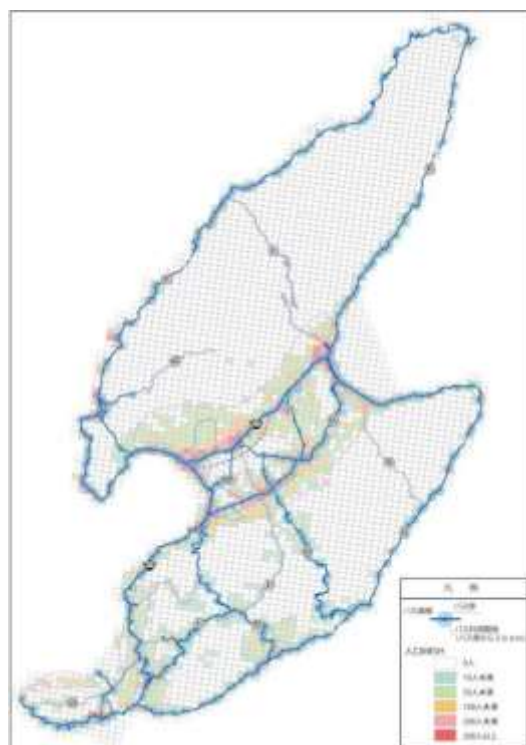


図 バスの利用圏域
(メッシュ人口とバス停300m圏域)
資料：佐渡市公共交通網形成計画

- ・実際に市内を走る路線バスは、主要道路上に路線が設定されているが、空白地域が存在しており、利用圏域（バス停から 300m）外での高齢者等の移動手段の確保も課題になると考えられる。
- ・そのため、コミュニティバスやデマンド交通、乗合タクシーといった路線バスを補完するための移動手段の導入や、住民同士の“互助による輸送”に向けた体制づくりといった対策が必要となる。例えば北海道中頓別町では、町民のボランティア・ドライバーのマイカーを利用した相乗り事業「なかとんべつライドシェア」を実施するため、自治体が主体となってマッチングプラットフォームを導入、運営を行っている。



図 なかとんべつライドシェア
資料：地域のモビリティ確保の知恵袋 2019
～互助による輸送の事例～(国土交通省)

② 移住・定住

- ・移住者の受け入れのために重要な取り組みとして、「仕事情報の発信や仲介・斡旋」、「地域の受け入れ体制の構築」といった意見が多く、特に 10～30 代の若い世代では、「家賃や転居費等の経済的支援」や「居住体験の機会の充実」といった意見も多く挙げられている。
- ・そのため、市外へ移りたい理由である娯楽・商業環境や仕事環境を改善するとともに、情報発信や居住体験の実施といった市外在住者へ向けたアプローチの強化や、地域住民の理解や受け入れ体制の整備など、地域への働きかけが必要となる。
- ・また、「空家等の管理や有効活用」に関する取り組みの不満度は全体で最も高く、重要度も 4 番目に高いほか、実際の空き家率も県内市部で最も高い状況にある。
- ・そのため、移住・定住の受け入れ先として、空き家を積極的に活用していくことも必要となる。

3) 子育て・健康・医療・福祉について

① 子育て環境

- ・子育てに関する取り組みについて、30・40 代で「教育・子育て支援の充実」の重要度が 80%以上で高い。
- ・また、子育て世代アンケートでは、子育て支援のための取り組みについて、特に「公園や児童館などの遊び場」に関する取り組みの満足度が最も低く、今後の重要度も最も高い。

- ・公園等の遊び場については、子育て世代ワークショップで、「自然を活かした遊び場の整備」や「遊具や絵本があり、飲食ができる施設の整備」といった意見が挙げられている。

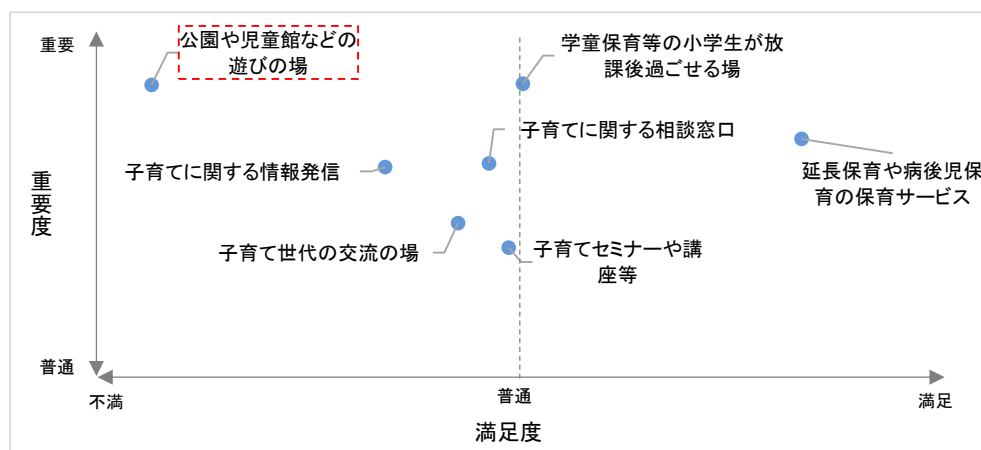


図 問 12 子育て支援に対する満足度・重要度（子育て世代アンケート）

- ・また、結婚・出産・子育ての希望をかなえるために重要なこととして、10～40代の若い世代や子育て世代では、「子育てに関する経済的支援」や「企業の育児休業や労働時間の弾力化等に対する支援」といった意見が多く、子育て世代ワークショップでは、それらの解決策として、出産祝い金の配布や不用品のフリーマーケット開催といった経済的負担減らすための取り組みや、研修等による企業の理解促進や働き方の選択肢を増やすといった仕事との両立するための取り組みなどが挙げられている。例えば長野県松本市では、「松本キッズ・リユースひろば」として、短期間で使わなくなる子ども用品を市民から提供してもらい、配布会を開催して無料で配布している。



図 松本キッズ・リユース広場

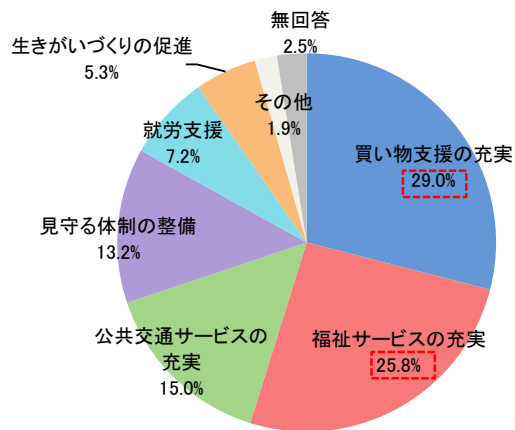
出典：松本市HP

② 高齢者・障がい者福祉

- ・高齢者・障がい者福祉に関する取り組みについて、60代以上で「高齢者・障がい者福祉の充実」の重要度が80%以上で高い。
- ・また、高齢者や障がい者が安心して暮らし続けていくために重要なこととして、60代以上では「移動販売や配達などの買い物支援の充実」や「地域医療や福祉サ

サービスの充実」といった意見が多い。

- ・佐渡市では、既にタクシーの買物等代行や宅配・生活支援サービスを行っている事業者があるが、今後はより連携を深め、サービス内容の充実や対応できる事業者の充実等を図る必要がある。



(n=1,631)

図 問 15 高齢者・障がい者が安心して暮らし続けるために重要なこと
(市民アンケート)

4) 教育・文化について

① 教育環境

- ・教育環境に関する取り組みについて、60%以上の方が「小中学生の学力の向上」、「学校の設備・機能の充実」、「高等教育の充実」が重要であると回答している。
- ・また、市内の教育環境で不安に思っていることについて、10・20代では、「進学のために市外へ転出しなければならない」と回答した方が多く、高校生ワークショップでは、「市内だけでは学べる分野に限られる」といった意見が多く挙げられた。
- ・それに対する改善策として、高校生ワークショップでは、「市の基幹産業である農業関係など学校の種類を増やす」、「リモート環境を整備して島内にいながら多様な分野を学べるようにする」といった意見が挙げられた。

② 歴史・文化

- ・歴史や文化を次世代に継承していくために重要なこととして、「技術の継承や担い手の確保」といった意見が多く、そのためには、歴史文化のより積極的なPRや、オンライン等を活用した技術の継承方法の多様化などが考えられる。例えば、金沢市では、Zoomを活用した金箔貼り体験を実施している。
- ・また、歴史・文化に関する取り組みについて、「佐渡金銀山の世界遺産登録推進」の重要度が低い。その理由として、自由意見では「世界遺産登録に係る財源を、住民の生活のために使用して欲しい」、「佐渡金銀山以外の文化財にも予算を充てて欲しい」といった意見が見られた。
- ・一方で、高校生ワークショップでは、佐渡市の魅力として「歴史的な建造物が多く、独自の歴史や文化を間近に感じられる」といった意見が挙げられている。
- ・そのため、佐渡金銀山の世界遺産登録により期待できる効果や、住民へどう還元されるのかといった説明を徹底し、住民の理解を深めていくことが必要となる。



図 Zoomによる工芸体験
出典：金沢市デジタル工芸展 HP

5) 産業について

① 産業の活性化

- ・産業に関する取り組みについて、「観光産業の振興」、「農林水産業の振興」、「佐渡産品のブランド化」の重要度は70%以上となっており、高校生ワークショップにおいても、市の魅力である食べものや歴史・文化を活かし、SNS やイベント開催による特産品や文化のPRが必要であるといった意見が挙げられた。
- ・産業を活かし、雇用を維持・確保していくために重要なこととして、「農林漁業従事者の確保」の回答が多いため、4) ①教育環境と関連して、基幹産業である農林漁業分野について佐渡で学べる環境を整備しつつ、そのまま佐渡で働くことに繋げていくことが重要であると考えられる。

② 雇用の創出

- ・産業に関する取り組みについて、特に「雇用・就業の場の確保」と「労働者の人材育成や確保」の満足度が低く、重要度が高い。
- ・雇用・就業の場の確保においては、高校生ワークショップで「希望する職種が少ない」、「規模や先端技術の導入など魅力的な企業がない」、「そもそもどの様な職業が市内にあるのかが分からない」といった意見が挙げられていることから、将来の担い手である若者世代に対する市内企業のPRを強化していく必要がある。
- ・また、IT技術の進歩やテレワークの普及により、場所を選ばない働き方が全国的に注目されていることから、自然豊かな職場環境としてPRし、積極的な企業誘致を行っていく必要がある。例えば大分県姫島村では、「ITアイランド構想」を掲げ、IT企業の誘致やIT人材の呼び込みのための環境整備を行っている。
- ・また、雇用を維持・確保していくために重要なこととして、「働きやすい環境づくり」が多く挙げられており、3) ①子育て環境と同様に、テレワーク等による働き方の選択肢の充実や、職場環境の改善に向けた意識啓発等を進めていく必要がある。



図 姫島 IT アイランド紹介 HP

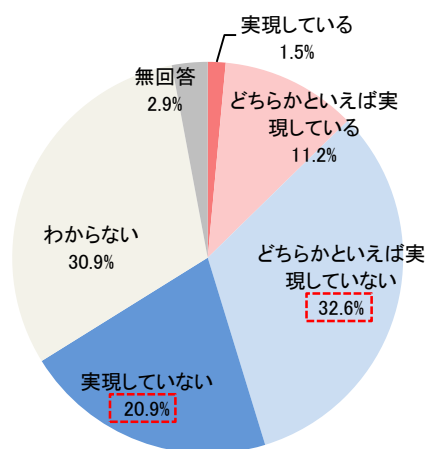
出典：姫島村 HP

6) 市民活動・行政活動について

① 協働によるまちづくり

- ・まちづくりへの市民参加については、半数以上の人々が「実現していない」と感じ

ており、自由意見では、「住民と市職員・議員が交流や意見交換をできる機会が少
ない」といった意見がみられる。



(n=1,631)

図 問 19 まちづくりへの市民参加（市民アンケート）

- ・今後のまちづくりについては、半数以上の方が市民と行政が協働で行うべきと考えており、地域や市民ができることとして、10～30代では「子育て支援」、40・50代では「まちの清掃・緑化」、60代以上では「高齢者の支援」といった意見が多い。
- ・このことから、子育てシェアや地域による高齢者の見守り体制など、地域住民同士の“共助”や“互助”を促進していくための体制づくりや意識啓発が必要となる。

7) 新型コロナウイルスについて

① 新型コロナウイルス感染症の影響と対応

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により変化したこととして、日常の外出が減ったほか、10～50代では「外食が減った」、60代以上では「健康を意識するようになった」といった意見が多い。
- ・今後施策を進めるうえで重視すべき点として、「地域医療体制や設備の充実」や「感染症の予防対策の推進」といった意見が多く、自由意見では、市外からの感染や感染拡大をした際の医療崩壊を懸念する意見もみられる。

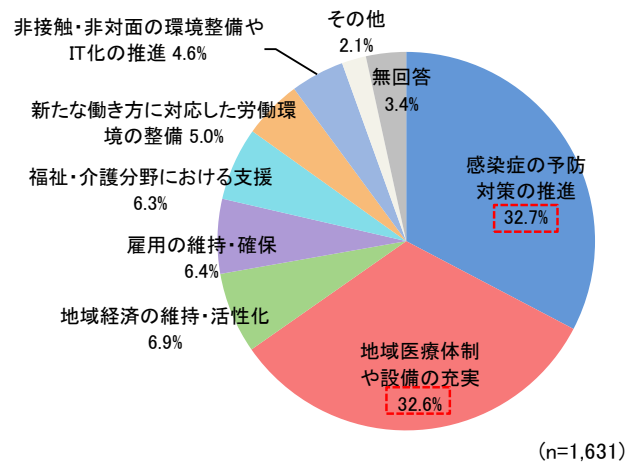


図 問 23 施策を進めるうえで重視すべき点（市民アンケート）

- 30代では、「新たな働き方に対応した労働環境の整備」といった意見も多く、5) ①産業の活性化と関連し、テレワーク等の環境整備が求められている。
- 佐渡市では、新型コロナウイルスワクチン接種のための体制整備が進められているが、住民へのこまめな情報提供や副反応に対する不安解消等が求められる。